

資料館入館者の推移 (暦年:人)

年	町内	県内	県外	合計
20	431	1,110	314	1,855
21	318	2,368	1,196	3,882
22	173	2,414	2,121	4,708
23	103	1,583	972	2,658
計	1,025	7,475	4,603	13,103

(注) 20年は10月19日～12月末まで



ブラジル・ブレン市在住の長島弘さんは、母の故郷・沢内を訪問のおり、妻(右)と東京の従妹と共に資料館へ。最も遠い国からの来館者でした。(平成22年5月)

去年は県外客が激減 入館者 前年の56%

深澤晟雄資料館の昨年入館者は、3年間の通年比較で過去最低となりました。特に県外入館者が激減、入館者総数でも前年の56%にとどまりました。

県外入館者の減少は宿泊客の減少にも影響し、震災直後には団体予約のキャンセルが目立ったといわれます。ある宿泊施設の話では「震災よりも原発事故が影響している」といいます。特に関西以西は「放射能汚染の東北」というイメージが強いようです。

資料館にも震災前の1月に兵庫県から34人、2月に山口県・高知県から16人が入館したほかは、西日本からの団体での入館はありません。

開館以来では遠くは九州各県をはじめ、沖縄県を除く全国各地道府県から訪れていきます。また、海外からは21年11月に中国から19人のほか、ブラジル在住の日系人(写真)の来館もあります。

4月から 通常開館

平成20年10月19日にオープンした資料館は、22年11月に1万人を達成、昨年12月末で1万3千人を数えています。

深澤晟雄資料館は1月から3月まで予約で開館

する冬の休館体制をとってききましたが、4月から通常開館します。

毎週月曜日は休館ですが、その日が祝日に当たると場合はその翌日を休館とします。ただし、休館日でも開館できる場合もありますのでご相談下さい。

資料館の除雪



深澤晟雄資料館は休館中でも予約開館に備えて除雪は欠かせません。資料館入口周辺やトンガリ帽子の胸像・いのちの灯・説明板前も念入りに除雪されます。これは会員ご夫妻のボランティアですが、豪雪の今冬は大変な重労働です。心から深く感謝申し上げます。

金一封
に感謝

東京都昭島市中神町

山中幸子様

梟雄の心を永遠に ③ 胸像に誓う



「幸福の基盤は物や金ではない。健康であることだ」という深澤村長は、「生命尊重こそ政治の基本」という自らの理念に徹しました。胸像建立趣意書では、その業績を以下のように述べています。

人間尊重の精神 貫く健康の保障

氏の優れた今一つの業績は、人間尊重の精神によって貫かれた保健行政といえます。今なお、新聞テレビ等いわゆるマスコミで問題視される無医村、無医村に近い村こそ十年前の沢内でなかったでしょうか。

吹雪の中を担架や馬そりで運ばれて行く重病人、その重病人の果たして何人が生還されたでしょうか。経済的貧困とか遠隔地帯との理由によって、尊い人命が惜しげ



深澤村長時代の保健医療行政の殿堂・旧沢内病院

もなく奪われていくことは人間最高の悲劇であり、暗黒であるといわなければなりません。

生きとし生ける人間にとって、幸福の基盤はその人の健康であり、天寿を全うすることにあります。理由が何であれ健康の保障のないということは、人間生活に限りない不安と焦燥を与えます。

保健医療行政に 輝く栄誉と脚光

氏が六千村民が自分の郷土を楽土と思ひ、これをこよなく愛して行くには、医療行政更には保健行政の推進と徹底にあると考えたのは、まさに当然のことです。六千村民がその時その所で精一杯家業に励むことが、沢内村の平和であり、繁栄であるとは氏の堅い信念でした。

深澤村長は逝去されましたが、内容・施設の整備された沢内病院は村民保健の象徴として大空にそびえていることは、私たちに生活の幸福と意欲を与えてくれます。

哀調切々たる沢内甚句は、過去の沢内を物語って国内に流布されていますが、乳児死亡率ゼロと弱者層の国保十割給付等、日報文化賞あるいは保健文化賞の栄誉に輝く村と



乳児死亡率ゼロを支えた石川敬治郎先生の乳児検診

して、全国の脚光を浴びる沢内の現在です。

時代の推移として割り切るには余りにも大きな変貌であり、これまた深澤村長を中心とした六千村民の勝利の栄冠として子孫に伝うべき遺産ではないでしょうか。氏の業績は、土木行政における災害復旧、農業振興対策としての土地改良区の再建、教育行政が果たした婦人団体の育成、学校統合等列挙にいとまないものがありますが、すべて氏の冷静な識見と燃えるような郷土愛の所産といえます。

(つづく)